

編集後記

風が爽やかになり、自転車で走るのが楽しい季節になってきた。

日本は、現在第3次自転車ブームとのことであるが、街を走っているロードレーサーやクロスバイクを見ると、台湾やイタリア、アメリカ等の海外メーカーの製品が主であり、残念ながら日本のメーカーのものはほとんど見かけない。

先日、東洋経済 On Line で見た「ガラパゴス化する、日本の自転車メーカー」という記事によれば、1990年代以前は世界一の輸出を誇っていた日本の完成車メーカーは、世界で勝負できる高付加価値の自転車に挑戦せず、国内で毎年数百万台売れるママチャリ（軽快車）市場に甘んじ、その間に、日本の下請けであった台湾メーカーが、最先端の欧州や米国で売れる自転車を作ろうともがき続け、技術力、ブランド力を身につけたとのこと。

現在では、日本の完成車メーカーは、国内市場でママチャリと電動自転車を売るのが精一杯で、一方台湾メーカーは自社ブランドと OEM で世界の高級自転車の半分以上を製造しているとのこと、これは、「ガラパゴス市場」にこだわり競争力を失った、携帯電話とそっくりの構図であるとのことであった。

自分が昨年購入したクロスバイクも台湾メーカー製である（フレームを見たら Made in China と書いてあったが・・・）。

もちろん、日本にはギアユニットでは圧倒的に世界一であるシマノのような部品メーカーも存在しており、台湾や世界中のメーカーにも部品を供給している。日本人や欧米人の体型に合った優良なフレームが作れば、日本メーカーの復権も望めるのではないかとも思う。

台湾では自転車で台湾を一周するのも盛んなようで、自転車で一周すると 1,000km から 1,200km とのこと。今年は、走行距離を台湾の地図にプロットし、台湾一周気分を楽しんでみようと考えており、どこまでたどり着けるか楽しみである。

（総務部次長 三浦満弥）